

(社)俯瞰工学研究所 所長 松島克守のメールマガジン 俯瞰メール第2世代 003号をお届けします。

俯瞰メール第2世代の最初のフェーズとして、混沌の中で先が見えないコロナ後の世界、今それを認識するために「コロナ後の世界 社会・ビジネス・政治」、「コロナ後の経済・産業・企業」、「Gゼロの世界 地経学で理解する新冷戦」、「コロナ後の日本 どう変わる、どう変える」を視座とします。そして第80回俯瞰サロン(講師:松島克守)のご案内、「中国工場トラブル回避術」(著者要約)、俯瞰人の日常生活、俯瞰人の料理あれこれ、さらに私感・雑感といたしました。

本文および記事に関連する写真・資料等は、(社)俯瞰工学研究所のHP:<https://www.fukan.jp>の「俯瞰 MAIL 第2世代」にアップロードして置きます。時間のある方は記事の参考資料を読んでいただくとう俯瞰的な認識が深くなります。またご意見、ご感想を頂けると励みになります。

2020年12月24日、2021年1月4日改訂

俯瞰人 松島克守

◆時候のご挨拶◆

寒い冬、大雪の季節がきました。12月中旬以降まで銀杏の葉が落ちないのは、これまでなかったような気がします。これからも暑さ寒さが交互に厳しくなる、これまでにない冬を体験することになるのでしょうか。地球温暖化に対して個人的に何をすべきか、みんなで考えなければならない課題です。

◆コロナ後の世界 社会・ビジネス・政治◆

・依然として見えないコロナ後の世界

コロナ後の世界の不確実性の要因の大きな原因であったアメリカ大統領選挙がバイデンで決着しましたが、依然この後のアメリカ社会の状況は誰にも予測できません。少しトランプ前の状態に戻ると考えています。具体的には地球温暖化のパリ協定への復帰、ないがしろにしてきた同盟国との関係修復などですが、米中対立は超党派の対中強硬論が優勢ですから、トランプが切ったカードをとりあえずはそのままにして、これを交渉のカードとして使いながら中国との交渉に臨むと思いますが、それもよく見えません。

バイデン政権の最大の課題は、トランプ大統領残したアメリカの大きな分断です。残したと言うより、これまで表面に出てこなかった保守派とリベラル大きな分断です。融合を呼びかけてもお互いに顔を合わせての罵り合った仲ですから、簡単には融和というわけにいかないでしょう。

ブレグジットも、依然として現時点でも(12月20日)先が見えません。当然ジョンソン首相も自体が最終局面にあって、一定の妥協が必要である事はわかっていると思います。もうゲームを終わらせる時です。

最後まで残った交渉の課題は、漁業権にあると言われていています。確かにイギリスの主権を取り戻すという事は、領海内の漁業はイギリスが決めることしかありません。たぶんドイツはそれほど漁業に依存していませんが、フランスはかなりの漁獲をイギリス領海内に依存している漁民が多いと思いますから、最後である程度の妥協ができるでしょう。今回の新型コロナウイルスによるドーバー海峡の混乱を見れば、合意なきブレグジットの先の混乱が身に染みて、双方理解したことでしょう。

それにしてもマクロン大統領はコロナに感染し、ドイツのメルケル政権は、後継者の争いで不安定です。そしてEU内でもナショナリズムが台頭し、EUの理念を揺るがすような状況になっています。

従ってコロナ感染がある程度落ち着いても、EUが強力な経済復興策を直ちに実行できるかどうかは不透明です。さらに最新型コロナウイルスがイギリスで急拡大して、各国はイギリスからの直行便、鉄道、フェリーを遮断する状況になり、各国に急拡大です。WHOは、欧州は「厳しい6か月」を迎えると警告していますから、ますます先行きは不透明です。

すなわちアメリカもヨーロッパも、コロナ後の世界は依然不透明で見えません。ですから俯瞰的な認識でその方向性を見極めることが重要です。日本についてはこの後に話しましょう。

#### ・コロナワクチンでコロナの終焉が見えたか

コロナワクチンの接種開始は世界にとって大きな朗報で、トンネルの先に光が見えた感じですが、ですから株式市場は史上最高値をつけています。しかし現在はヨーロッパとアメリカはコロナ感染が拡大して、経済活動を一時的に停止する状態です。クリスマス休暇後の状況を見ないと、各国政府も安易に経済活動の規制を緩めるわけにはいかないでしょう。ヨーロッパ、アメリカそして日本と、先進国はワクチン接種を強力にかつ迅速に進めることによって経済活動が再開できる状況になると思います。コロナに感染するリスクがないと思えば、国際交流に動くことができます。公表していませんが、ワクチンの獲得に日本政府も巨額の資金を投じるとは思います、ある意味やむを得ないと思います。私も順番が来たら真っ先に手を挙げます。精神的なコロナからの開放感を早く享受したいと思います。

バイデン氏「アメリカは戻った」 閣僚ら主要6人事発表

<https://www.bbc.com/japanese/55067896>

分断する米国(1)トランプ寄りメディアに異変が

[https://news.tv-asahi.co.jp/news\\_international/articles/000201702.html](https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000201702.html)

英首相、EUとの通商交渉は「深刻な状況」 欧州議会は20日が期限と

<https://www.bbc.com/japanese/55359142>

妥協し始めたイギリス。EUとの交渉はやや好転:ブレグジット

<https://news.yahoo.co.jp/byline/saorii/20201215-00212652/>

変異ウイルス感染拡大 物流の混乱解消へ英仏合意

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20201223/k10012779131000.html>

欧州は「厳しい6か月」迎える WHOが新型コロナウイルスで警告

<https://www.bbc.com/japanese/55011885>

#### ◆コロナ後の経済・企業・産業◆

##### ・V字回復の先は

世界経済は、OECDによれば来年度以降急速に回復する予測になっています。当然各国政府の強力な、そして前代未聞の金融緩和を中心とした経済政策で、経済はリバウンドの形でV字回復をすとは思います。

特に中国経済とインド経済は力強く回復すると思っていでしょう。いろいろな課題はありますが、中国経済も力強く回復しています。インド経済については十分な情報ありませんが、仕事の関係上、インドのデジタル経済の情報は注視しています。インドのデジタル決済は急速に成長しています。さすがに4月5月は少し落ち込みましたが、その後はコロナ前の成長曲線のトラックに戻り、11月はそれを超える状態になっています。具体的には11月1か月で6兆円を超えるデジタル決済がされています。力強い消費経済の証明です。

しかし世界は、これまでの世界とは違う世界になるという俯瞰的な認識に立てば、産業構造の変革が必然的に起こります。単なる旧状復帰ではありません。この産業構造の変革には時間がかかりますから、一時的にV字回復しても、その後、高成長が継続するとは思われません。

急速に需要回復に対応する小売業も、構造的にすでに大きく変化しています。大きなダメージを受けた飲食業や観光業も、新たなビジネスモデルに移行した企業が新しい世界に生き残るでしょう。

製造業も一時的に自動車産業が急回復していますが、例えば家電製品などはコロナ危機の巣ごもり生活で需要を先食いしていますから、販売は現在の勢いを継続することは難しいと思います。

しかも自動車産業は、テスラの参入でこれから先、大きく変革して事は確実でしょう。時価総額で言えばテスラ以外の企業の時価総額の合計を超えていますし、中国でサプライチェーンを着々と構築し、中国からヨーロッパに輸出を考えているようです。

そして自動運転の技術を着々と磨いてきた Apple は、ここに来て自動運転の電気自動車の生産販売に乗り出すようです。かつて BMW との連携が報道されたことありますが、今回の報道は F1 の名門マクラーレンとの連携です。

まだテスラが創業したばかりの頃、パロアルトのショールームでテスラの運転席に座ったことがあります。その時これは走る iPhone だと実感しました。まさに Apple の自動車は走る iPhone の先を行く商品なるでしょう。

テスラにしても Apple にしても、自動車業界全体を席卷しないまでも、この業界に大きなインパクトを与えるでしょう。

従来のサプライチェーンを持っていないという事は、それを保護するという負の資産もありません。しかもインドで自動車を生産するとしても、日本のトヨタ、日産、現代自動車と生産実績がありますから、インドにはそれなりに自動車サプライチェーンは存在しています。ですから、Apple がインドで自動車生産を始める事はそれほど難しくないかもしれません。当然自分で生産するのではなく、生産組み立ては別会社に委託することでしょうから。

コロナ危機で多くの企業が正規社員を解雇し、希望退職で人材を絞り込みましたが、縮んでだけではコロナ後の世界で生きていけません。産業構造の変革に合わせて、未来志向の企業に作り替えていく必要があり、その時、人材の入れ替えも必要となります。新しいビジネスモデルは多くの企業が新しい人材を求めることとなります。それは IT 関連に集中することになるでしょう。マーケティングの世界でもデジタルマーケティングの人材が必要です。しかし新しく企業が必要とする人材は、もともと払底しています。これをどうするか、社員の「再研磨」が必要です。

一方、在宅勤務で仕事ができるというセグメントは作業分担ですから、これは企業が DX を進めれば急速にアウトソーシングできます。すでにそういった傾向は見えています。しかし仕事は「作業」だけではありません。分担する作業は在宅でもできますが、新しい事業を切り開く「仕事」は他人とアイデアを出し合い、磨きあげていくこととなります。このような新しい仕事の世界の人事システムも、短時間で移行することはできません。

しかしビジネスの世界は競争の世界です。短期間に事業モデルを再定義して、それに向かって新しい体制を始動させる経営者の見識と知的腕力は必要となります。

・巨大 IT 企業に独禁法の網

巨大IT企業すなわちGAFAに対する規制が厳しくなってきました。今までグローバル経済の中で自由奔放に振る舞って急成長を遂げたGAFAに対し、新しいスタートアップのイノベーションを阻害する要因として、独禁法の適用が裁判として始まります。

振り返ってみると、コンピュータの巨人IBMは、当時コンピュータに関する技術情報を圧倒的に独占していました。加えてハードとソフトの抱き合わせ販売で、業界の競争に勝ち抜き業界を支配してきました。これに対しアメリカ政府は独禁法によってIBMの寡占状態を潰しました。当時社内にはいたので、この関係ですべてのドキュメンテーション、契約において厳しい法務部門のレビューがあり、これにかなりの時間を取られた記憶があります。

しかし、このIBMに対する独禁法の規制により、Microsoftをはじめとするパソコンメーカーおよびそのソフトや産業がアメリカの80年代以降のIT革命を花咲かせました。

そして90年代になるとMicrosoftが独禁法の対象となりました。1998年に始まった独禁法裁判は2011年に12年間の訴訟が和解になり収束しました。

そしてMicrosoftによる買収という恐怖に委縮していたGoogleをはじめとした新しいIT企業が続々と誕生し、成長を遂げました。そして今度は彼らが独禁法の対象になったわけです。

この歴史を見ると、IT業界におけるアメリカの独禁法の裁判は、結果としてアメリカのIT産業を大きく成長させ、今やアメリカ経済全体を支えるまでになりました。

ですから、今回のGAFAに対する独禁法裁判によって、次世代のイノベーションが新産業の創成に寄与するでしょう。

この間、日本は既に成長力を全く失った経団連企業が経済産業省とIT産業の政策を取りまとめ、イノベーションも新産業創出もできず、IT産業と独禁法は無縁のように見えました。実質はNTTデータ、富士通、NEC、日立といった既存のIT産業の利権を保護しただけです。その典型が巨額を投じながら何も進まなかった、電子政府のプロジェクトです。そして今回のコロナ危機でその実態が明らかになりました。10万円の給付すら処理できない行政システムです。

今回の菅内閣の目玉であるDX精神が、同じような既成勢力の利権の保護にならないことを私たちは厳しく監視する必要があります。

OECDの世界経済見通し、明るい兆しも不確実性な状況続く

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/12/7cad0fc2d41b3699.html>

IMFの世界経済見通し

<https://jp.reuters.com/news/global-economy>

10月のユーロ圏貿易黒字、前年から拡大 輸出が回復

<https://jp.reuters.com/article/eurozone-economy-trade-idJPKBN28Q1AM>

中国経済の“光と影”

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020112700534&g=int>

米アップル、自動運転車を製造へ 2024年目標＝関係筋

<https://jp.reuters.com/article/apple-autos-idJPKBN28V2UR>

Appleがマクラーレンを買収してApple Carを開発？ Bloombergが提案

<https://iphone-mania.jp/news-334970/>

EU、巨大ITに包括規制案 自社優遇「違法」に

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOGR148M20U0A211C2000000>

グーグル アメリカ司法省が提訴の裁判 本格審理は 23 年 9 月開始  
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20201219/k10012773371000.html>  
FB とグーグル、まもなく 4 件の訴訟に直面か  
<https://jbpres.ismedia.jp/articles/-/63111>

#### ◆G ゼロの世界 地経学で理解する新冷戦◆

##### ・ヨーロッパは対中関係を軌道修正

近年ヨーロッパすなわちEUやイギリスは、中国経済の恩恵を受けてきました。しかしここに来てヨーロッパの基本理念である人権問題、民主主義について中国と深い溝があることを改めて再認識し、中国との関係を見直す方向に動いています。

コロナ危機からの経済再建にも中国経済はヨーロッパ諸国にとって極めて重要なパートナーですが、中国の最近の外交姿勢が各国に中国警戒の雰囲気を作り出しました。コロナ危機の最中も中国の進めるコロナ外交があまりにも中国中心で信頼感を失いました。詳細はわかりませんが、医療機器などの輸出において相手の足元を見るような商談を進めているようです。

軌道修正を進めるといっても、アメリカのような単純なデカップリングを欧州はできません。政治と経済そしてヨーロッパの理念のバランスを取りながら仕事付き合いの道を模索していくのでしよう。この辺は日本とも共通する問題です。しかも日本は地理的に隣国ですし、ASEANを中心としたアジア経済とともに共生する立場ですから。

しかし世界の地政学的なホットゾーンが地中海、中近東からインド太平洋地域に移っているという認識ははっきりしていて、冷戦時にロシアに対抗するために組織された NATO も、インド太平洋地域の安全保障に関心と懸念を感じてきました。

安全で安定した国際貿易がヨーロッパにとって最も戦略的な安全保障政策ですから。したがって地政学の基礎をなす軍事力のバランスも重要視してきます。これまで直接軍事力のプレゼンスを見せなかった国までもこの流れに沿ってプレゼンスを見せることになるでしょう。これは日本にとって好ましいことでもあり、また新たな地域の緊張関係を作りだすこととなります。

ともあれ日本は独り立ちして、安全保障を国民的な議論にしなければなりません。もうアメリカに頼る時代は終わったと考えるべきです。この難しい日本外交を菅内閣ができるのか大きな懸念を持っています。

##### ・ヨーロッパも参画するインド太平洋構想

中国の「一帯一路」に象徴される、力づくの海洋進出の脅威を認識し始めたヨーロッパも、日本が提唱したインド太平洋構想に参画し始めました。

イギリスとフランスは、インド太平洋で「航行の自由」作戦を行っており、英独仏の欧州3カ国が軍艦派遣で足並みをそろえることになりました。英仏独 3 カ国の海軍に米海軍と日本の海上自衛隊が加わり、世界トップクラスの海戦能力を持つ 5 カ国海軍が日本周辺の海、すなわち中国周辺の海に集まって中国封じ込めのシフトを組むことになりました。「天気晴朗なれども波高し」のインド太平洋ですか。

EU、対中関係を軌道修正 自由・民主主義で妥協できず  
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO63800180U0A910C2EA1000>  
ドイツ政府、中国企業による買収阻止 安全保障上の懸念で

<https://jp.reuters.com/article/germany-china-idJPKBN28J0H3>

中国、「合意なき離脱」迫るイギリスに「政府による差別に加担するな」と忠告

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2020/12/post-95175.php>

中国を封じ込める「海の長城」構築が始まった

<https://news.yahoo.co.jp/articles/133c1061246a7e1b4bfcae32354b91494379e44b?page=3>

中国中心のアジア外交を変更したドイツ 「インド太平洋」重視 識者が語る理由

<https://mainichi.jp/articles/20201120/k00/00m/030/014000c>

ドイツ国防相、インド太平洋への軍艦派遣を表明

<https://www.sankei.com/world/news/201215/wor2012150033-n1.html>

2020 Military Strength Ranking

<https://www.globalfirepower.com/countries-listing.asp>

#### ◆「コロナ後の日本 どう変わる、どう変える◆

以上、議論してきたコロナ後の世界情勢、世界経済の不確定性を見ると、この時点で日本がどう変わるか、どう変えるかの議論は難しいですが、一番大きなコロナ後の流れは、すでに起きている未来が急峻に進むという事で間違いありません。

DXによるテレワーク、製造業からサービス業、対面からネットで、ESG投資へのシフト、気候温暖化政策の推進とそれに伴う新産業の創出などです。

企業にとってはこの歴史的な不連続な変化の時代に、新しいチャンスがこのすでに起きている未来の中に見つける必要があります。今見えていない未来の中にチャンスを探す事は徒労に終わるでしょう。プランの細部が決まりませんから。しかし元に戻るとか、当分現状維持を続けたいという日本の企業文化が、それだけでなく凋落気味の日本経済をさらに縮小させるでしょう。

自動車業界は、急峻なEV化を緩め、しばらくハイブリッドでつなぎたいとトヨタの社長が言っています。関連企業を含めると500万人の雇用があるといいますが、だからこそこの雇用を新しい世界に移行する努力が今の業界指導者の使命でしょう。

確かにEV化の実装は時間をかけて進行しますが、いつもこのパターンで気がつく世界に遅れてきました。今回はこれまでの周回遅れを取り戻す最後のチャンスでしょう。

日本経済全体にとっては、人口減少に起因する成長力の弱さをどう克服するかが最大の課題です。海外からの労働力の導入をきちとした政策・制度で固める必要があります。無秩序の移民導入で現在のヨーロッパが苦しんでいる事例を分析し研究する必要があります。

長らく神奈川、埼玉、千葉から東京都心部への人口の流入が続きましたが、すでにこの変化は10年以上前から逆転しています。そして専業主婦の割合も。すなわち共稼ぎの家庭が社会の大勢になっていることもすでに起きている未来そのものです。このように身近なデータを分析すれば、すでに起きている未来は見えます。インターネット、スマホの普及もすでに起きている未来そのものです。スマホをまだ使っていない人には実感できないでしょう。この点では、通信料金の大幅値下げの政策は正鵠を射ています。

個人にとって重要な事は、これから10年のライフスタイルをここで見直すことです。10年以上は誰も見えません。すでにバズワードになっている、リモートオフィス、副業、フリーランス、ワーケーションなどから安易な転職や移住を考えるのは危険です。今後10年間のライフスタイルを熟

考した上で、現在の仕事、仕事の場所が大きく乖離しているならば、その時初めて新しい仕事、新しい仕事の場所を精査すべきでしょう。自分を取り巻く環境を大きく変更する事は、大変な努力が必要です。安易に考えて行動するのは危険です。私も大きく何度か自分を取り巻く環境を変えましたが、その都度、今考えてもよく乗り越えたと思うほどの苦労と努力を体験しました。

トヨタ社長「自動車のビジネスモデル崩壊」 政府の「脱ガソリン」に苦言

<https://mainichi.jp/articles/20201217/k00/00m/020/371000c>

東京都の昼間人口、常住人口及び昼夜間人口比率の推移

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2020/03/30/22.html>

大都市への流入人口(通勤・通学者)

<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2005/jutsu1/00/02.html>

共働き世帯の実情をさぐる(2020年公開版)

<https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwarai/20200811-00191772/>

2019年の日本の雇用者数は5,660万人、そのうち非正規が2,165万人

<https://webtan.impress.co.jp/n/2020/02/18/35338>

企業倒産件数、4カ月連続で減少

<https://response.jp/article/2020/11/11/340228.html>

#### ◆第80回俯瞰サロンのご案内◆

松島克守所長 記念講演

「コロナ後の製造業」

新年明けての俯瞰サロンは、80回目の開催を記念して、当俯瞰工学研究所所長 松島克守による「コロナ後の製造業」をZoomによるオンラインで開催いたします。皆様のご参加をお待ちしています。

ご参考:[俯瞰メルマガ第2世代 第2号、第3号](#)

#### ★松島克守(まつしまかつもり)

東京大学工学部卒業、IHIの航空機エンジンの生産技術者を経て、東京大学で生産システムの知能化の研究に従事。西ドイツ・フンボルト財団の奨学研究者としてベルリン工大でCAD/CAMの研究に従事。日本IBMで、ワークステーション・パソコン、製造業のマーケティング戦略を担当。プライスウォーターハウス日本法人の常務取締役。

1999年より東京大学工学系研究科教授。経営戦略学専攻で「俯瞰経営学」を講義。研究活動として、ビジネスモデル、地域クラスター、知の構造化を推進した。総合研究機構・機構長、イノベーション政策センター長等を歴任、2009年3月退官。

2010年1月、東京大学での10年間の研究活動を継承し、さらに発展させることを使命として、協創する場である(社)俯瞰工学研究所を設立。

#### <記>

■日時:2021年1月22日(金) 18:30~20:30(開場:18:20)

■参加費用:500円(税込)

■主催:(社)俯瞰工学研究所 <https://www.fukan.jp/>

■お申込サイト:<https://80fukansalon.peatix.com/>

◆「中国工場トラブル回避術」～原因の9割は日本人～ ロジ代表 小田淳著/日経 BP 発行◆  
(著者要約を掲載します)

中国や東南アジアなどの海外メーカーから部品を購入したり、量産を委託したりする日本の企業は多くあります。その作製過程において、日本の設計者は現地メーカーと意思疎通がうまくいかず、不良品や仕事上のトラブルを発生させることが現在でもなお多発しています。最近ではカビの発生などで問題になったアベノマスクがその典型です。アップルのアメリカ人は高品質の iPhone を中国で 10 年以上も製造し続けているのに、何故日本人ではこのような事態になってしまうのでしょうか？

私はソニーで 29 年間の設計経験があり、駐在を含む 7 年間は中国で部品と製品を製造してきました。その私の目から見ると、そうした不良品や仕事上のトラブルの原因の多くが、日本の設計者が日本での仕事の仕方をそのまま中国に持ち込んでおり、さらに日本の設計者が、自身の仕事の仕方が世界的に見れば特殊であることを認識していないからと分かりました。本書では、それらの不良品や仕事上のトラブルの原因を 3 つの視点から解き明かし、それらの事前回避策を具体的に提示します。

- 1)中国人の国民性を理解した仕事の仕方
- 2)日本語通訳に確実に伝える会話と情報(メールや会議)の出し方
- 3)製造現場の確認方法

まず、1)は中国人にはその国民性による仕事の仕方があることを解説します。それは決して特殊なものではなく、世界的に見れば日本人が特殊であることを理解してもらい、その日本人のとるべき行動を解説します。2)では、予想以上に私たちの日本語の会話や文章は現地の日本語通訳に伝わっていないことを理解してもらい、その具体的な対応策を伝えます。3)では、日本の設計者は日本の優秀な部品メーカーと「あうんの呼吸」で仕事の進めていることを認識してもらい、それが中国では通用せず日本の設計者が行うべき仕事があることを理解してもらいます。

一般的に「不良品」というと、設計が全て完了した後の製造現場での品質管理の問題と捉えられ、その対策本は専門書として多く出版されています。この本は、部品や製品の作製過程において中国と関わる全ての業務に、不良品や仕事上のトラブルになる原因は潜んでいるという観点から、それらを事前に回避する方法を伝えます。最後には、中国や他の国々で技術立国日本の技術者として一目置かれる日本人になるために取るべき行動と態度を伝えます。

- 第 1 章 注意すべき日本人と中国人の根本的違い
  - 第 2 章 トラブルと不良品をなくす 3 つのアプローチ
  - 第 3 章 わだかまりをなくす中国人との仕事
  - 第 4 章 中国企業との関わり方
  - 第 5 章 100%意思疎通できる話し方
  - 第 6 章 100%伝える会議とメール
  - 第 7 章 不良品はここでこうして造られる
  - 第 8 章 不良原因の見つけ方
  - 第 9 章 トラブルを起こさないものづくりの進め方
  - 第 10 章 一目置かれる日本人になる
- 出版社: 日経 BP、定価: 2500 円 + 税

◆俯瞰人の日常生活 デジタル書齋、交流、食事、健康、……◆

・コロナ下のパーティー

私がセンター長の DMGMORI 先端技術研究センターで、参加者全員 PCR 検査を受けて 3 日以内の陰性証明書を持って参加する新入社員歓迎会、忘年会、クリスマスパーティーを企画しました。趣旨は、「自粛」がややもすると「自縮」になりつつありますので意識改革のための企画です。

#### ・個人の DX

コロナの給付金 10 万円を使って、身の回りの DX をしました。

まず iPhoneX から iPhone12mini に更新しました。iPhoneX はソフマップで、4 万 7 千円で下取りしてもらいました。箱その他付属品全て買ったままでしたので。ちなみにドコモの買い取り価格は 3 万 7 千円でした。iPhoneX は少し大きめの画面でしたが、iPhone-mini にすると手になじみフォントの大きさで見やすくなりました。

次は Apple Watch を 2 型から最新の 6 型に更新しました。2 型は iPhone がそばにあると電話ができましたが、6 型は単独で電話が利用できます。電話がかかっても iPhone を探さなくてもいいので、すごく便利です。ただしドコモに月 500 円取られます。

今回 5G 使い放題プランが値下げになりました。その 5G ですが、現在は自宅の近所では渋谷駅周辺しかサービスがありません。渋谷駅で試してみました。確かに 5G のマークが出ます。早速、実験開始です。音楽データのダウンロードは Google music からダウンロードしてみました。一瞬です。次に動画を試しましたが、なぜか動画のダウンロードは同じ場所で 4G の通信になってしまいます。これでは従来と全くおなじです。時間がなかったのでこれ以上試してみませんが、改めて日本の 5G インフラの整備が、完全に世界から取り残されていることを実感できました。

ドコモ、au、ソフトバンクという組織は、時代に遅れた人たちが仕切っているのでしょうか。独占企業で巨額の利益を上げているために、現状を維持することに注力するため、新技術の導入を意図的に遅らせるという、日本の悪い企業文化が露骨に出ています。今回、菅内閣で携帯料金の値下げを強要していますが、こればかりは是非やってほしい、現状をぶっ壊してほしいと思います。

通信業界の腐敗を是正するために、菅首相は以前から楽天の三木谷さんに肩入れしてきましたが、その楽天モバイルがトラブル続きで立ち上がってきません。そもそも楽天も企業体質として問題があります。

この議論は別の機会にしますが、楽天のビジネスモデルは成長できないビジネスモデルです。昔ながらの小さな商店の集まった市場の構造ですから。Amazon やアリババなど中国の EC 急成長はビジネスモデルがスケールラブルです。

今こそ日本人のメンタリティ、企業文化、価値観をこのコロナ危機でぶち壊す必要があります。

書斎のデスクトップにスピーカーをつけることを考えました。これまでは、もっぱらヘッドホンで済ませていましたが、さすがにハイレゾ音源を聴くには音域不足ですから。ネットで少し調べるとクリプトンの PC スピーカーが良さそうなのでこれに決めました。

クリプトンは高級スピーカーのメーカーですから、かなり高価なスピーカーが主力になります。PC スピーカーはかなり価格の幅があります。いろいろ考えましたが、結局、最先端のテクノロジーのスピーカーを試してみることにしました。KS55 というスピーカーです。

自分の中にまだどこか残っているエンジニアの心が、スペックに吸い込まれました。完全なデジタル時代のスピーカーです。小さなスピーカーですが高級オーディオの技術がふんだんに使

われていて、Bluetoothの最先端の技術(apX HD)が組み込まれています。ケーブルなしのBluetoothでハイレゾ音源が再生できます。スピーカーは12センチのウーファーと60kHzまで再生できるトゥイーターの2wayで、デジタルアンプはバイアンプ駆動方式で、高域と低域を分けて駆動するという凝った作りです。低音はさすがに60kHzまでですが、十分です。むしろよくここまで再生できるという音質です。

ハイレゾ音源はネット上で提供されることが多いですから、スマートフォンやハイレゾ対応のウォークマンから直接このスピーカーにコードレス接続できます。

使ってみると、居間にある10数年前の大型スピーカーは一体何だったのだろうと思わせます。ただ10万円近い価格ですから、家内の給付金まで使ってしまいました。

クリプトン、USB/Bluetooth 内蔵の小型アクティブスピーカー「KS-55」。apX HD に対応  
<https://www.phileweb.com/news/audio/201809/14/20157.html>

#### ◆俯瞰人の料理あれこれ◆

海外に赴任する友人ご夫妻を夕食に招待しました。人を自宅に招待するのは1年ぶりです。メニューは我家の来客料理の定番に近いですが。

最初にシャンペンで前途をお祝いしました。その時のつまみに、洋梨の生ハム巻きと、甘エビの唐揚げを用意しました。

次はクッキングディナーと一緒に料理を作るスタイルです。

まずポタージュとしてビーツのポタージュを作りました。今回は水煮のビーツを使いましたので短時間で出来上がります。真っ赤な美しいスープです。仕上げに生クリームを垂らすとピンク色にかわります。

次は魚料理ですが2種類用意しました。鯛のカルパッチョとカキの春巻です。鯛のカルパッチョは40年くらい前、赤坂に海皇という中華料理屋が開店して鯛生き作り作りの刺身を出しました。中華の刺身という、これまでにないジャンルでしたので大評判でした。この店はもうありませんが、同名前の店はまだ赤坂にあります。そしてこのメニューは今もサービスされていると思います。本物は色々凝っていますが、最大の難関はタレです。自分でいろいろ試しましたが全て失敗して、ネットでなんと販売されていたのでこれを買って使っています。「皇醬」というたれです。

カキの春巻は私が勝手に考えた料理です。春巻きの皮に白ネギのみじん切りと水気を切った生食用のカキを置き、パルメザンチーズをおろしてかけます。これでコクがでます。これを春巻のように巻いて、5ミリ程度の深さの油で揚げ焼きをします。もともとはカキフライが好物でしたが、手間がかかるので春巻にしようと思いついたのです。これは大勢の人に好評です。

メイン料理は肉になりますが、ドーンとステーキでは様になりませんから、イタリア料理のタリアータすなわちステーキを切り分けたものです。私のオリジナルは野沢菜ステーキです。野沢菜を細かく刻んで皿に敷き詰め、切り分けたステーキの肉を載せます。野沢菜と肉のマリアージュは和風ステーキそのものです。好みで醤油とわさびを合わせることもあります。

デザートは今出盛りの「あまおう」です。そして紅茶です。

お客様と一緒に作っては食べ、また作っては食べるというクッキングディナーです。料理教室のような雰囲気もありますが、楽しいパーティーになります。でないと私がキッチンにこもり、話もできませんから。

レシピは「俯瞰 MAIL 第2世代」におきます。

で普段のメニューはというと。

12月20日

「豚とインゲン豆の煮込み」、豚肉と白インゲン豆のトマトソース煮です。

「きゅうりの中華炒め」、「カキの春巻き」、「イワシのツミレ汁」、そして「ラタチューユのピザ」です。ラタチューユは前の日の残りです。イワシのツミレ汁は、市販のツミレを顆粒のホタテと顆粒のあごだしのスープに入れたもので、とろろ昆布も入れました。海藻はできるだけ取るようにしています。海苔、アオサ、わかめ、昆布など。

12月21日

「北京風酢豚」、「ブリのカルパッチョ」、「牛肉と大根のスープ」、「ショートパスタのトマトソース」、です。トマトソースは前の日の残りです。ぶりは魚屋で切ったもの。ちなみに「豚とインゲン豆の煮込み」の残りは「カスレ」としていずれ再登場します。

といった感じで、美味しい、食べたいと思う料理を作って毎日料理を楽しんでいます。あまり手間はかけていません。残り物のリメイクもします。市販の顆粒のダシとスープは多用しています。まともに作ると金と時間がかかりますから。白インゲン豆は水煮を使います。トマトソースの出番は多いです。

#### ◆私感・雑感◆

新冷戦は欧州を巻き込んだ中国包囲網になりましたが、経済的には米国のような単純な中国排除はできないというジレンマをどうするか。

バイデン政権はトランプの残した、グチャグチャの世界情勢をうまく処理するどころか、張り切った新閣僚がさらに混迷を深める可能性もあります。

ロシアは、シリアをはじめ中近東に覇権を追求していますが、よく見るとベルラーシ、アゼルバイジャンなど旧ソ連圏がグチャグチャで、ソ連時代の威光の復興にはほど遠い状況です。国内の政治基盤も少し怪しい感じです。これでコロナワクチンの事故が起こるとガタが来そうです。中国のワクチンも何かあるかもしれません。

ともかく菅首相の支持率が低い。最初の段階で手順を間違え、メディアとの関係も悪くしたのが原因でしょう。

国民はコロナ感染と経済活動に真剣に立ち向かっているのに、いきなり学術会議？それ何でしょう。

専門家が必至でGOTOの一時停止を提案しているのに馬耳東風。国民に会食自粛を呼び掛けて自分は連日不要不急の宴会。内閣支持率の急落で大慌て。

国民全体がリーダー落第の印象を持ってしまったと思います。誰かそばで俯瞰的な情勢判断でコーチする人はいないのでしょうか。

コロナはしぶとい、想定以上に長引きそうです。幸いワクチンが開発され、接種が欧米で接種が始まり、新型ウイルスにも有効ということでトンネルの先に光は見えました。

それにしてもヨーロッパは酷い、なぜだろうか？

ヨーロッパは酷いが、日本はうまくいっていると思っているのか、菅内閣は。

菅首相と小池知事は国民、都民の命には無関心でコロナを政治の遊びに使っていると思えません。「嫌な女」という感じがますます強くなりました。

最近の医療関係者はドイツのメルケル首相のように涙せんばかりで厳しい規制を求めています  
が、まだ自民党の派閥、貸し借りに固執しているのか！

大盤振る舞いの予算の後始末は孫の代まで続くと思うと、孫に残してやらないと。と思うようになります。つけはわが世代が払うべきものですから。

◆俯瞰 MAIL 第 2 世代 003 号(2020 年 12 月 24 日、2021 年 1 月 4 日改訂)◆

編集: 俯瞰人(松島克守)

発行: 一般社団法人俯瞰工学研究所

配信: 石川公子

内容: 記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで

URL: <https://www.fukan.jp/>